

廃校を文化発信の拠点に

福島・下郷町に「会津ジイゴ坂学舎」オープン



「会津ジイゴ坂学舎」のオープンを喜ぶ渡部代表(前列右から3人目)と安孫子監督(隣後方)ら11日

本当の福島 伝えたい

満開の桜に囲まれ、静かだった校舎にぎやかな光景が戻った。福島県下郷町ジイゴ坂地区にある廃校が「会津ジイゴ坂学舎」として、今月3日にオープンし、地域文化発信の拠点に生まれ変わった。1日には完成パーティーが行われ、地元、県内外から多くの関係者が参加。「原発事故の風評に抗い、本当の福島をこころ伝えていこう」と、晴れの門出を祝った。
(東日本大震災取材班)

「懐かしいねえ。ここで入学式したのよ」。この学校で育ったという星シヅ子さんは、数十年前の「幼き日」に思いをはせながら、母校の廊下をゆっくりめぐり踏みしめた。
「会津ジイゴ坂学舎」は、廃校としてしばらく使われていなかった下郷町の旧旭田小学校落合分校を全面的にリニューアルしたもの。町民ら有志が町から借り受け、管理は町が行う。東日本大震災前後から会津地方を中心にドキュメンタリー



映画を撮影し続けている安孫子監督(54)が、「地域に寄り添った映像を撮るために、その地域に住む」という信念のもと、製作スタジオとして同校を活用した

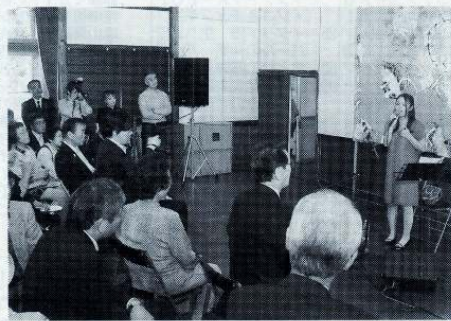
映画製作スタジオとして活用

さまざまな面で支援し、下郷町の文化を世界に発信が開催される。

ことが同施設オープンのきっかけにつながった。施設は、映画製作のスタジオとして使われるだけではなく、天体観測や里山ピクニックなど体験型のワークショップを開講したり、会津の特産品を味わえるショップやカフェなどを通して会津の伝統文化を発信する。

ワークショップや地元特産品販売も

廃校に新しい命を吹き込んだ同施設代表の渡部政昭さんは、「廃校を再生し、地域の交流の場をつくってこれたことをうれしく思う」とも、これ以上ない地域の振興だと考えている。町としても、さまざまな面で支援を愛した作家として知られる故・立松和平氏の写真展が開催される。



牧岡さんのしみりとした歌声が参加者の心を揺さぶった11日

さんは、「昔、地元の皆さんが集ったこの学舎が、これから先の世代のために役に立ってほしい思いで今日までやってきた。映画の発信だけでなく、いつでも皆さんが集い、同じ時間を共有できる場所として提供していきたい」と意気込む。
安孫子監督の作品のプロデューサーを務め、同施設の準備にも携わったナオミさんも、「震災以降はみんながバラバラになってしまっている。みんなの小さな力を合わせて大きく発信できればカッコいいじゃない」と目を輝かせる。
そして、いよいよ迎えた完成パーティー。施設内の多目的スペースは施設のオープンを待ち望んでいた人たちに知ってもらいたい。桜舞う校舎を眺めながら、安孫子監督は福島未来を思い描いていた。
完成パーティーには、学舎オープンを側面から支援してきた隣町・南会津町の芳賀沼順一・公明町議も参加した。なお、きょう12日から6月15日までは、会津を愛した作家として知られる故・立松和平氏の写真展が開催される。